

スーパーグローバル大学創成支援事業検証部会（第2回）要旨

1. 日時 令和5年2月22日（水）13時00分から15時00分までの間
2. 場所 文部科学省13F2会議室及びオンライン
3. 議事概要

- スーパーグローバル大学創成支援事業の検証のまとめ（案）

- ・委員による意見交換がおこなわれた。委員による発言の概要は以下のとおり。

- この10年間のSGU事業で一生懸命やったところはそれなりの成果を上げているし、いろいろな指標も随分よくなった。
- SGUの成果として、非採択校との比較も含め、明らかな数字の伸びや差があり非常に効果があったことが分かったが、これをどのように構造的にしていくかが重要である。
- 国際共同研究などの大学国際化のもたらす研究推進についての成果がアンケート調査からも見られている。そのインパクトの検証を通じて、SGUが教育の国際化だけではなくて研究推進にも貢献し、今後も国際共同研究や産学連携で研究推進を行う枠組みが必要である。
- 頭脳循環という意味でも、日本人の学生や研究者が海外に出て国際共同研究なりでネットワークづくりすることは極めて重要。

<オンライン教育・JV-Campusの活用>

- オンライン教育の活用については、世界の一つの大きな方向性になっていると非常に感じる。SGUの中でJV-Campusも立上げる中でオンラインを活用し、実留学などと組み合わせたり、既存のJDやDDなどとも組み合わせながら国際化を進める方向性も出すことが重要である。
- また、例えばCOILのような形で研究室同士や大学同士がつながっていくと、それが学生をモチベートし実留学につながるということが国際的にも確認されたということであり、やはり多様なスキームを組み合わせていくということが非常に重要である。
- JV-Campusを活用して、海外の若者の日本への呼び込みにつながるような日本独自の風土や歴史といった一連の講義を英語でどんどん発信すれば、日本への魅力も随分変わるだろう。JV-campusはSGUにとっても非常に重要な武器になり、その活用や発展についても、今回の検証に踏まえておくことが必要。

<国際共同教育プログラム>

- 海外の留学生が日本を選ぶモチベーションは様々にあるが、期間や単位が無駄にならないことが重要であり、その意味でも、単位互換、JD、DD辺りの整備をしっかりとやっていかないといけない。
- JDやDDについて、大変に素晴らしい成果も上がっているところもあるが、JDの制度が作りにくい・難しいといった課題も挙がっているところ、良さの普及をより進め、もっと促進されるような仕掛けが必要ではないか。

○JD はハードルの高い大変さは理解するが、海外のカリキュラムとレベルを合わせることで教育の質を上げることにもつながる。SGU でここまで進めてきたことをさらに進めることは、大きな武器になるだろう。

○質保証という意味では JD が重要だが、インセンティブやハードルを考えると、JD のみでは現実的に国際共同教育プログラムが進まない。国際共同教育プログラムについて、もう少し細かく柔軟に考えていく展開を政策的にも支えていく必要があるのではないか。

<外国人留学生の就職・定着等>

○外国人留学生の就職の課題について、やはり首都圏と地方都市で大きく状況は異なる。首都圏であれば、英語だけのカリキュラムで就職もできるだろうと思うが、地方都市では、やはり日本語でのコミュニケーションがしっかり取れないと難しいところがあるので、大学もだいぶ苦労している。

○この問題の一つには、日本の企業が大学で学んだカリキュラムや内容を評価して採用をあまりしていないという印象を持つ。アメリカだと学んだ内容でその資格を生かして就職するところ、日本は採用してから育てるという意識を強く感じる。

○もう一つは、地方都市のような企業は、例えば DX、ICT、SDGs への貢献といったところの意識がまだまだ高くなく、人材採用を進める意識もまだ低いと感じる。

○外国人留学生が、地域に溶込んだり日本の企業に就職するには、日本語はしっかりできていた方がいい。日本の文化の教育も含め、留学生が日本語を上手に使えるようになる仕組みを強化する必要がある。

○また、地域の中で育っていくような外国人が増えるというのも、非常に日本にとっては重要なこと。

<日本人学生の留学に関する課題>

○日本人学生の留学派遣については、短期での送出しが長期留学につながってきていると思う。また、大学の中で国際化されている状態（Internationalization at Home）があると結果的に海外と連携した国際化の教育プロジェクトに結び付くということも分かってきており、切れ目のない形で国際化の枠組みを作っていくことも重要。

○日本の大学の授業や研究室の運営を英語化しているところには海外からも人が集まり、日本人学生が留学に行くインセンティブも大きくなり、留学へのハードルが低くなることも多い。やはり、授業やカリキュラムの英語化などの大学の中の国際化と短期留学や国際共同教育プログラム、国際共同研究推進などの様々な国際化の形態を、同時にシームレスに進めることが、結果的に長期の留学が増えることにつながると思う。

<その他>

○国際的な知名度やブランドの継承と海外への発信は非常に大事なこと。成果を上げている日本の大学としてアピールするようなことを考えてほしい。

(以 上)